

2022年（令和4年）全国犬猫飼育実態調査 結果

犬：705万3千頭、猫：883万7千頭
犬・猫 推計飼育頭数全国合計は、1,589万頭

犬の新規飼育頭数は過去10年間で最多の426千頭と増加。猫の新規飼育頭数は432千頭と前年より減少。犬、猫の飼育頭数、飼育率はほぼ昨年から横ばいであり、新規飼育意向は低下が続いている。飼育の阻害要因として 犬は生体価格の高さが年々増加傾向にあり、犬、猫としては 若年層ほど「飼育費用」や「飼育経験がないので大変さがわからない」が高くなる傾向にある。

ペットを飼う事は家族にも良い影響を及ぼしており、犬を飼うことは 子供への良い影響として「家族の絆が強まった」「子供の毎日の生活が楽しくなった」「気持ちが明るくなった」、同居する両親への良い影響として「人と会話する量が増えた」が高く、猫も子供への良い影響として「子供の気持ちが明るくなった」が高い傾向にある。

一方、犬、猫とも年間支出額が増加しており 特に犬はフードや医療費が大きい。

ペットフードの事業者を中心とした87社（正会員52社、賛助会員35社 2022年12月現在）で組織する 一般社団法人ペットフード協会【東京都千代田区、会長：児玉 博充】は、2022年（令和4年）全国犬猫飼育実態調査を行い、この度その結果がまとまりました。

主な結果は次の通りです。

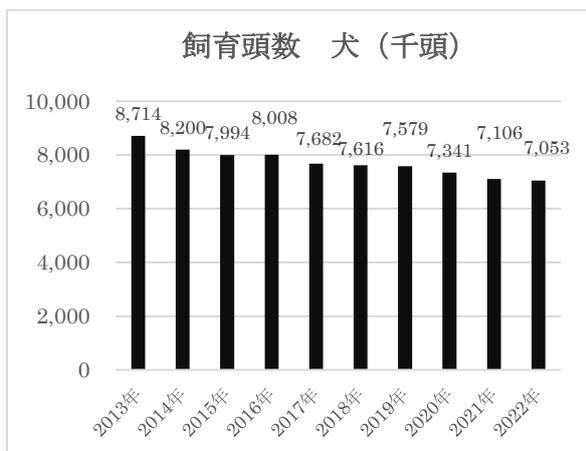
1. 2022年 全国犬・猫 推計飼育頭数 （P. 18～21）

全国の推計飼育頭数 犬：705万3千頭、猫：883万7千頭。

犬の全体の頭数、世帯飼育率も9.69%と ほぼ前年の横這いとなりました。

猫の全体の頭数、世帯飼育率も8.63%と 犬と同様 ほぼ横ばいとなりました。

*なお、猫の頭数調査結果には外猫の数は含まれておりません。



犬の新規飼育頭数は426千頭と過去10年では最高の頭数となりました。

猫の新規飼育頭数は432千頭と前年より若干減少いたしました。



*平均寿命を迎える2005年～2007年に生まれた犬は80～100万頭前後いるため、新規飼育者の飼育頭数増にもかかわらず、犬の総飼育頭数は横ばいとなっています。

2. 2021年 犬猫の年代別現在飼育状況 (P. 23)

年代別での飼育状況をみると、5年前と比べ犬の飼育率はほぼ全ての年代で減少しており、最も飼育率の低下が顕著なのは昨年と同様50、60代でした。また、猫の飼育率は、5年前と比べてほぼ横ばいとなっています。

()は2018年比

	犬	猫
全体	11.1% (▼1.5%)	9.6% (▼0.2%)
20代	12.3% (▼1.2%)	9.3% (0.3%)
30代	10.9% (▼0.8%)	9.5% (0.5%)
40代	11.3% (▼0.9%)	10.0% (▼0.8%)
50代	11.9% (▼2.6%)	10.7% (▼0.6%)

60代	11.6% (▼2.1%)	10.2% (▼0.2%)
70代	8.9% (▼1.1%)	7.6% (▼0.1%)

3. 2022年 犬猫の年代別今後の飼育意向 (P. 26)

年代別での今後の飼育意向は、犬猫ともに5年前と比べ前年代で低下傾向となっています。特に20代の飼育意向の低下が大きくなっています。

()は2018年比

	犬	猫
全体	17.1% (▼3.6%)	13.8% (▼2.0%)
20代	18.5% (▼5.6%)	15.1% (▼4.2%)
30代	18.2% (▼3.5%)	14.3% (▼2.8%)
40代	17.8% (▼3.3%)	14.8% (▼2.6%)
50代	18.5% (▼3.6%)	15.8% (▼1.4%)
60代	16.6% (▼3.6%)	13.1% (▼0.5%)
70代	13.5% (▼1.8%)	9.9% (▼0.7%)

4. 2022年 今後ペットの飼育促進に向けて

今後ペットの飼育促進に向けて、現在、非飼育者で飼育意向のある方々の「阻害要因」、「飼育のきっかけ」への回答として挙げられた上位項目は以下の通りとなりました。(複数回答)
犬、猫とも阻害要因として「世話をするのにお金がかかる」が上位に入りました。

阻害要因 非飼育者&飼育意向あり__犬 (P. 94)

- | | |
|----------------------|-------|
| 1. 旅行など長期の外出がしづらくなる | 26.4% |
| 2. 別れが辛い | 25.9% |
| 3. お金がかかる | 23.3% |
| 4. 集合住宅に住んでいて禁止されている | 22.6% |
| 5. 死ぬとかわいそう | 22.0% |

阻害要因 非飼育者&飼育意向あり__猫 (P. 95)

- | | |
|----------------------|-------|
| 1. 集合住宅に住んでいて禁止されている | 29.7% |
| 2. お金がかかる | 21.1% |
| 3. 別れが辛い | 20.7% |
| 4. 旅行など長期の外出がしづらくなる | 20.2% |
| 5. 死ぬとかわいそう | 18.9% |

飼育理由__犬 (P. 58)

- | | |
|----------------------------|-------|
| 1. 生活に癒し・安らぎが欲しかったから | 32.1% |
| 2. 過去に飼育経験があり、また飼いたくなかったから | 25.5% |
| 3. 生活を充実させたいから | 15.5% |

飼育理由__猫 (P. 71)

- | | |
|----------------------------|-------|
| 1. 生活に癒し・安らぎが欲しかったから | 31.6% |
| 2. 過去に飼育経験があり、また飼いたくなかったから | 26.3% |
| 3. 生活を充実させたいから | 11.8% |

5. 2022年 犬・猫平均寿命 (P. 38)

犬全体の平均寿命は14.76歳で2010年に比べ0.89歳プラス、猫全体の平均寿命は15.62歳で2010年に比べ1.26歳プラスで平均寿命は犬猫ともに2010年以来伸びています。犬は、超小型犬の寿命が長く、また、猫の場合、「家の外に出ない」猫の平均寿命は16.02歳、「家の外に出る」猫の平均寿命は14.24歳と昨年引き続き 寿命に大きな差がありました。

6. 2022年 ペットフードのタイプ別利用率 (複数回答) (P. 83)

犬猫共に市販のドライタイプのペットフードの利用が約9割あり、ほとんどの飼育者が何らかの市販のペットフードを利用しています。

また、コミュニケーションを目的としたおやつやの給餌頻度が高まる一方、人間の食事の残りが 僅かながら 増加しました。

() は昨年の数字

ペットフードのタイプ	犬	猫 (外猫を除く)
市販のドライタイプ	85.3% (84.6%)	92.3% (92.5%)
市販のウェットタイプ	30.2% (29.5%)	50.5% (50.2%)
市販の半生タイプ	19.6% (19.3%)	18.3% (17.8%)
市販のおやつ	41.7% (40.2%)	48.1% (46.3%)
ペット用療法食	9.6% (8.6%)	11.8% (11.6%)
手作りのペット用食事	13.2% (13.1%)	3.4% (3.2%)
人間の食事の残り	6.2% (5.4%)	2.9% (2.4%)
その他	3.2% (3.0%)	1.9% (1.9%)

7. 飼育に必要な支援と飼育の効用 (P. 49、50)

飼育前に知りたいこととして犬では「しつけの仕方」、猫では「ペットの病気について」、不安な事として犬では「仕事をしていても十分にお世話が出来るか」、猫では「家や家具がぼろぼろにされないか」が上位にあげられ 犬と猫の飼育前に知りたいことと不安なことは異なります。

8. 犬、猫飼育による効用 (P. 51、52)

犬飼育による効用として、同居する子供への影響は「毎日の生活が楽しくなった」「家族の絆が強まった」、同居する両親への影響は「心穏やかに過ごせる日が増えた」、猫飼育による効用として同居する子供への影響は「気持ちが明るくなった」同居する両親への影響は「心穏やかに過ごせる日が増えた」「家族の絆が強まった」が上位にあげられており 犬猫を飼育することによる効用を実感されている。

9. 2022年 1ヶ月当たり支出総額 (犬：P. 60 猫：P. 72)

犬猫それぞれの支出総額は以下の通りです。()は去年の数字

犬に関する支出総額 (医療費等含む) ¥13,904 (¥13,843)

猫に関する支出総額 (医療費等含む) ¥7,286 (¥8,460)

以上